

今期業況天気図

今期業況天気図

期間：令和6年1月～3月（売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）

全業種総合の天気図は「小雨」で、総合業況DIは▲23と、前期▲22からほぼ変わらなかった。

業種別では、飲食業・サービス業は▲18（前期差6ポイント増）で前期の低下からやや持ち直した。建設業は▲13（前期差6ポイント増）とほぼ小幅の改善だった。製造業は▲29（前期差10ポイント減）、小売業・卸売業が▲37（前期差9ポイント減）で引き続き悪化が続く。

製造業、小売業・卸売業や飲食業・サービス業において、小規模事業者の景況の改善が進まず、全体としては足踏みが続いた形である。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 9	▲ 16	15	▲ 32	▲ 4
採算	▲ 26	▲ 25	▲ 14	▲ 46	▲ 22
仕入単価	▲ 63	▲ 69	▲ 72	▲ 74	▲ 50
販売単価	15	20	12	24	8
従業員	26	19	42	18	28
資金繰り	▲ 19	▲ 20	▲ 15	▲ 24	▲ 16
今期業況 (総合判断)	▲ 23	▲ 29	▲ 13	▲ 37	▲ 18
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					景気観測調査
快晴 DI値 31以上	晴れ DI値 30～11	薄曇り DI値 10～▲10	小雨 DI値 ▲11～▲30	雨 DI値 ▲31以下	<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

参考) 今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 令和5年6月～ 4月期					
2四半期前 令和5年7月～ 9月期					
1四半期前 令和5年10月～ 12月期					
今期 令和6年1月～ 3月期					

今期業況天気図

今期業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

期間:令和6年1月～3月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

小規模事業者のみの全業種総合のDIは▲29(前期差3ポイント減)で天気図は「小雨」。建設業は▲13(前期差5ポイント増)で前期に続き小幅の改善が続く。飲食業・サービス業は▲26(前期差5ポイント増)で、前期の悪化からやや持ち直した。製造業は▲31(前期差5ポイント減)で若干の悪化、小売業・卸売業は▲53ポイント(前期差26ポイント減)で急速に悪化した。長引く物価上昇と人件費上昇の影響が、特にこれらの業界では大きいようである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲15	▲15	8	▲45	▲14
採算	▲29	▲25	▲13	▲60	▲28
仕入単価	▲61	▲70	▲68	▲72	▲46
販売単価	9	15	1	17	5
従業員	21	16	38	19	17
資金繰り	▲23	▲25	▲15	▲32	▲22
今期業況(総合判断)	▲29	▲31	▲13	▲53	▲26
今期業況 天気図					

今期業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

期間:令和6年1月～3月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

全業種総合のDI値は▲14と前期から変わらず、天気図は「小雨」。小売業・卸売業は▲14(前期差15ポイント増)、飲食業・サービス業は▲7(前期差7ポイント増)で、いずれも前期の悪化から持ち直した、建設業は▲15(前期差7ポイント減)とやや悪化した。製造業は▲25(前期差17ポイント減)で大幅な低下。製造業・建設業では回復が遅れている。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	0	▲18	54	▲14	10
採算	▲20	▲25	▲23	▲24	▲15
仕入単価	▲66	▲68	▲92	▲78	▲55
販売単価	24	27	69	35	13
従業員	34	23	69	16	44
資金繰り	▲11	▲13	▲15	▲14	▲8
今期業況(総合判断)	▲14	▲25	▲15	▲14	▲7
今期業況 天気図					






業況天気図凡例					<<景観観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴	晴れ	薄曇り	小雨	雨	
DI値 31以上	DI値 30～11	DI値 10～▲10	DI値 ▲11～▲30	DI値 ▲31以下	






次期見通し業況天気図

次期見通し業況天気図

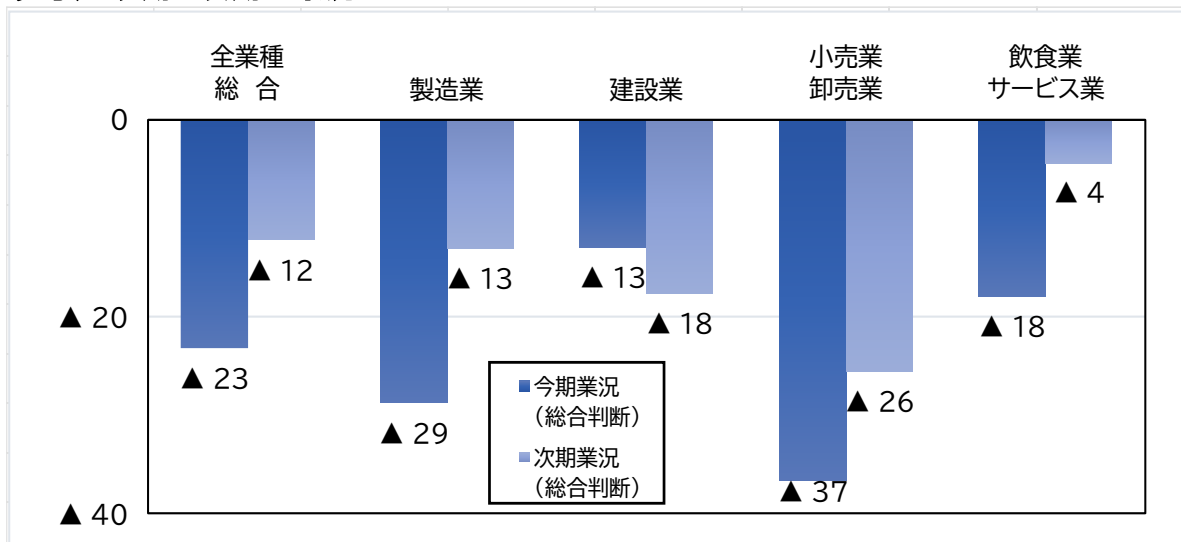
令和6年4月～6月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しの天気図は、▲12(今期差11ポイント増)で、天気図は「小雨」の見込み。産業別にみると、飲食業・サービス業は▲4(今期差14ポイント増)と製造業が▲13(今期差16ポイント増)が大幅に改善の見込み。小売業・卸売業は▲26(今期差11ポイント増)も回復が見込まれる。建設業は▲18(今期差5ポイント減)は若干の悪化の予想。飲食業・サービス業を中心に回復が見込まれる。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲2	▲5	▲8	▲14	8
採算	▲14	▲15	▲19	▲31	▲4
仕入単価	▲47	▲42	▲60	▲63	▲39
販売単価	12	3	13	27	12
従業員	22	16	34	16	25
資金繰り	▲13	▲12	▲14	▲27	▲7
次期業況 (総合判断)	▲12	▲13	▲18	▲26	▲4
次期業況 天気図					

業況天気図凡例					景気観測調査
 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下	<<景気観測調査>> 前年度同時期の景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

参考) 今期と次期の業況DI



次期見通し業況天気図

次期見通し業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

令和6年4月～6月見込(売上・採算・資金繰り・仕入単価・販売単価・従業員・次期業況DI値は今期との比較)
 全産業の次期見通しは▲19(今期差10ポイント増)と改善が進み、天気図は「小雨」の見込み。産業別にみると、今期悪化した飲食業・サービス業は▲11(今期差15ポイント増)、小売業・卸売業は▲38(今期差15ポイント増)と、次期は上昇に転じる予想である。製造業は▲18(今期差13ポイント増)も改善の見込み。建設業は▲18(今期差5ポイント減)と足踏みが続く予想である。小規模の小売業・卸売業では物価上昇にもかかわらず売上は伸びにくく、厳しい状況が続く予想がされている。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 9	▲ 12	▲ 17	▲ 25	5
採算	▲ 18	▲ 17	▲ 19	▲ 38	▲ 10
仕入単価	▲ 45	▲ 44	▲ 57	▲ 57	▲ 34
販売単価	4	▲ 3	3	17	5
従業員	19	16	29	19	17
資金繰り	▲ 17	▲ 16	▲ 14	▲ 34	▲ 11
次期業況(総合判断)	▲ 19	▲ 18	▲ 18	▲ 38	▲ 11
次期業況 天気図					

次期見通し業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

令和6年4月～6月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)
 全産業の次期見通しの天気図は、▲1(今期差13ポイント増)で、「曇り」の予測。建設業を除いて「曇り」となる予想である。産業別にみると、飲食業・サービス業は5(今期差12ポイント増)とDIがプラスになり好調が見込まれる。製造業は▲5(今期差20ポイント増)、小売業・卸売業は▲8(今期差6ポイント増)で改善が見込まれる。建設業は▲15(今期差±0ポイント)は停滞の予想。中小規模の飲食業・サービス業を中心に好調が続く見込みである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	10	5	38	0	14
採算	▲ 7	▲ 12	▲ 15	▲ 22	3
仕入単価	▲ 50	▲ 38	▲ 77	▲ 73	▲ 46
販売単価	25	13	69	41	21
従業員	28	15	62	11	38
資金繰り	▲ 6	▲ 5	▲ 15	▲ 16	▲ 1
次期業況(総合判断)	▲ 1	▲ 5	▲ 15	▲ 8	5
次期業況 天気図					

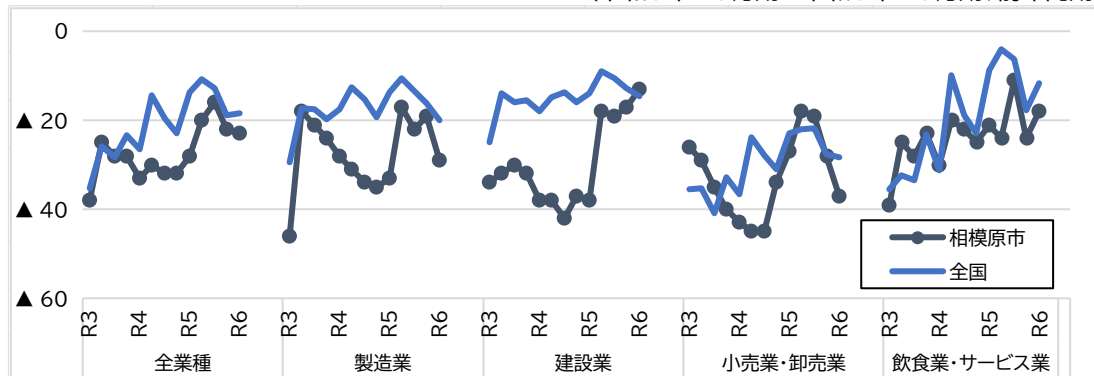
業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴	晴れ	薄曇り	小雨	雨	
DI値 31以上	DI値 30~11	DI値 10~▲10	DI値 ▲11~▲30	DI値 ▲31以下	

業況DIの推移

業況DI(前年同期比)の推移

全産業の業況DIは、今期は▲23(前期差1ポイント減)で、前期からほぼ変わらなかった。産業別にみると、建設業は▲13、飲食業・サービス業は▲18と改善が進んでいる。製造業は▲29、小売業・卸売業は▲37と、悪化が進んでいる。全国と比較すると建設業は全国と同様な水準となったが、その他の業種では全国より低い水準にとどまっている。

(令和3年1-3月期～令和6年1-3月期、前年同期比)

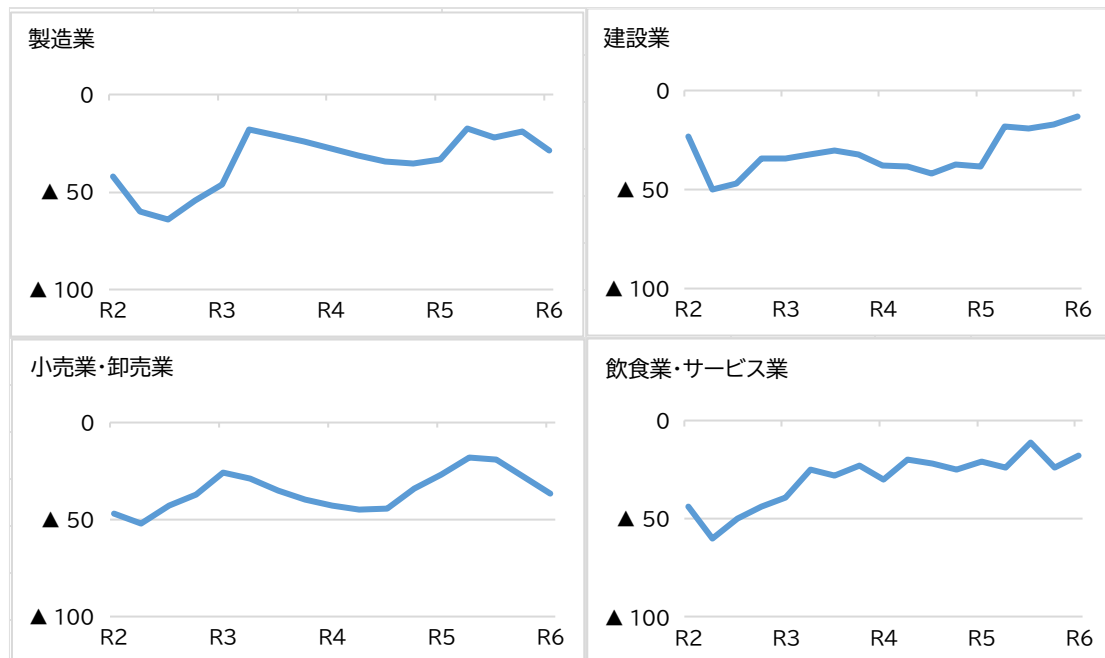


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「業況判断DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況(自社)」を質問項目としている

参考)業況DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



業況DI(特徴的なトピックス)

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

【製造業】

- ・半導体産業に携わっている関係で、販売単価が上昇し好転している。【精密機械・設計・製作】
- ・値上げができる営業マンがいない。【金属製品加工】
- ・男性の新卒者の採用が困難である。【臨床検査薬の開発、製造、販売】
- ・昨年迄の3年間はコロナ禍での業界不況の中雇用調整等で雇用を守ったが、今期に入り、相変わらず業況改善できず雇用削減をしたが不況感が続く。【放送設備の機器の設計・製造】

【建設業】

- ・売上高は少し持ち直してきた。原価上昇の転嫁も出来てきた。全体的には悪化。【手術室・クリーンルーム、居宅介護支援】
- ・意外に忙しい。【総合建設業 不動産業】
- ・電線(ケーブル)が仕入困難、入荷の目途がたたない。【建設業】
- ・週休2日制や、残業規制で、人件費や本社経費がかさむ。公共工事では、この点について、費用を見てくれている。【土木、建築、とび、大工、鋼構造、水道、解体、造園】

【小売業・卸売業】

- ・大手アミューズメント機器メーカーの開発が動き始めた。【業務用アミューズメント機器の開発・設計・電子製品・部品など輸入販売・電子黒板の販売】
- ・アウトドア業界における販売不振。客数、客単価、粗利額、全てでマイナスが続いている。【釣り具販売】
- ・個人消費がコロナ前より増加している。【健康食品】
- ・小売現場は値上げ基調に無い。運送コストの上げ基調。【飲料、酒、たばこ、宝くじ】

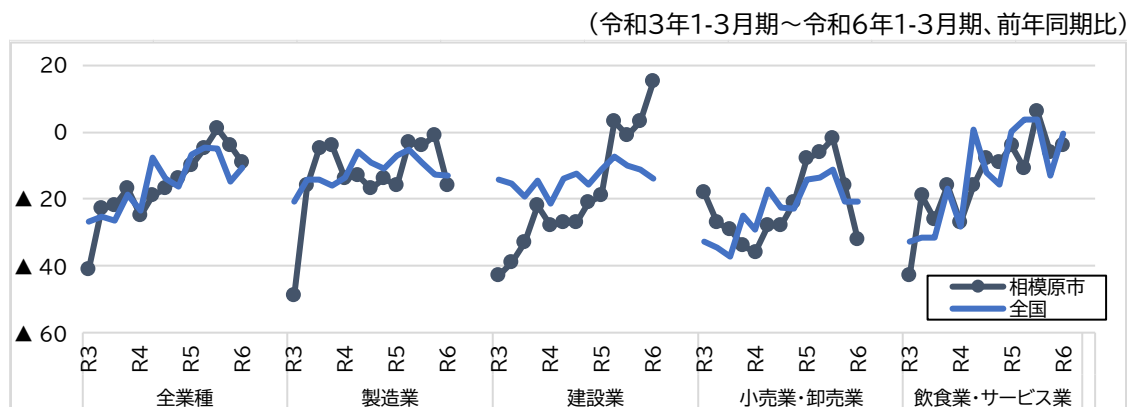
【飲食業・サービス業】

- ・季節的な消費はコロナ前に戻りつつあるが、従業員の確保が困難になってきている。【建築物清掃】
- ・賃上が政府・大企業で云われているが、中小企業では云われても無理。【ビルメンテナンス業】
- ・住宅着工件数の減少、土地取引の減少。【土地調査測量、表題部の登記(土地・建物)】
- ・インボイス等、電子帳簿保存などの事務面が大変面倒。事務処理の時間がかかり過ぎる。【コンサルティング業、生命保険、損害保険代理店】
- ・2024年問題への対応に、荷主の反応が悪い会社がある。【一般貨物運送事業】

売上DIの推移

売上DI(前年同期比)の推移

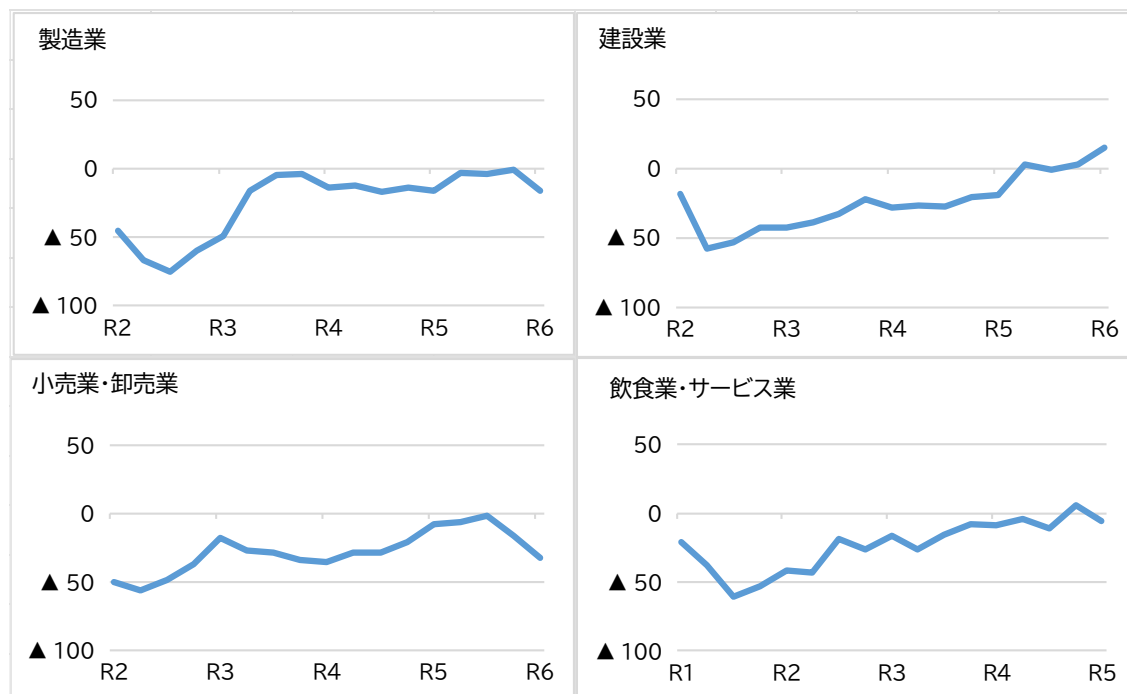
全産業の売上DIは、▲9(前期差5ポイント減)と、若干の減少であった。
 産業別にみると、建設業は15で受注が好調である。飲食業・サービス業は▲4で増加基調である。製造業が▲16で悪化した。小売業・卸売業は▲32で前期よりさらに減少した。
 全国と当市を比較すると、建設業は全国を大きく上回る好況だった。小売業・卸売業は全国に比べ悪化が進んでいる。



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「売上額DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 売上DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



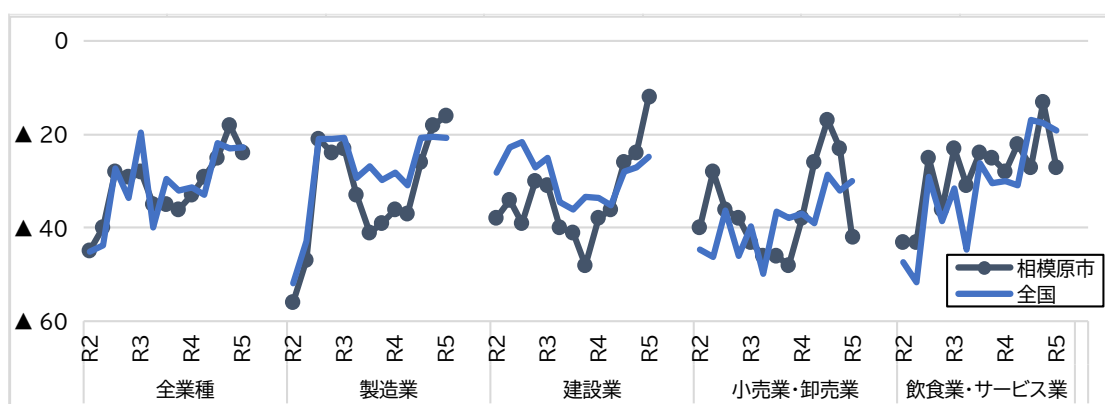
採算DI(前年同期比)の推移

全産業の採算DIは、▲26(前期差2ポイント減)と、前期とほぼ変わらなかった。
 産業別にみると、建設業は▲14、飲食業・サービス業は▲22で前期並みであった。製造業が▲25でやや減少した。小売業・卸売業は▲46と、前期同様低位であった。

建設業は、売上DIは大きなプラスを示したが、採算DIは、改善はしているものの依然としてマイナスであり、コスト上昇の影響が厳しいことが推察される。その他の業種では、売上DIの減少と連動して採算性も低下しているようである。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、建設業は全国よりDIが高く、小売業・卸売業はDIが低くなっている。

(令和3年1-3月期～令和6年1-3月期、前年同期比)

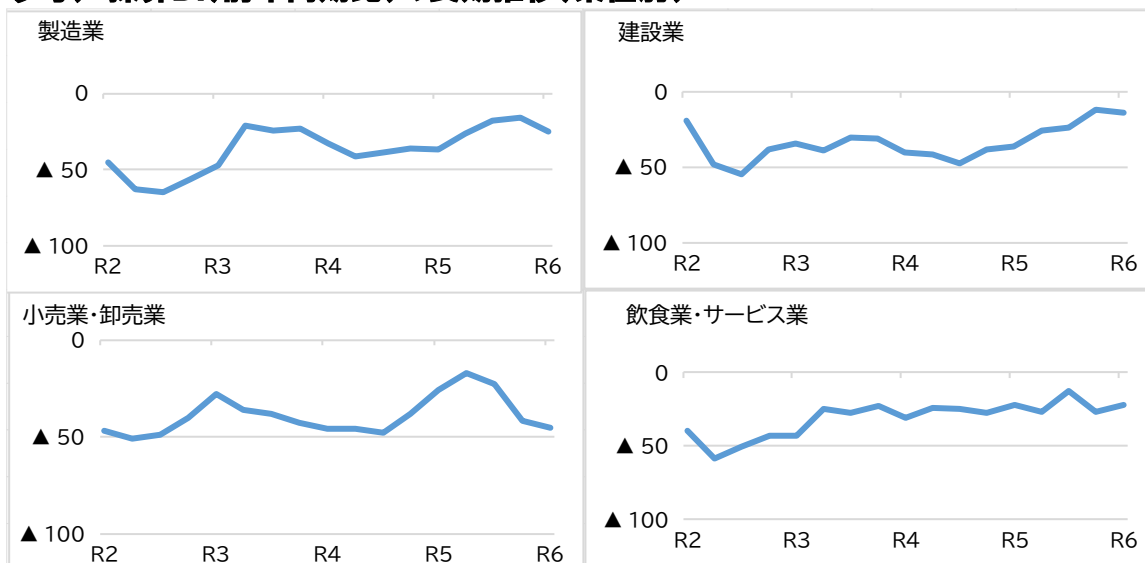


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

参考) 採算DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

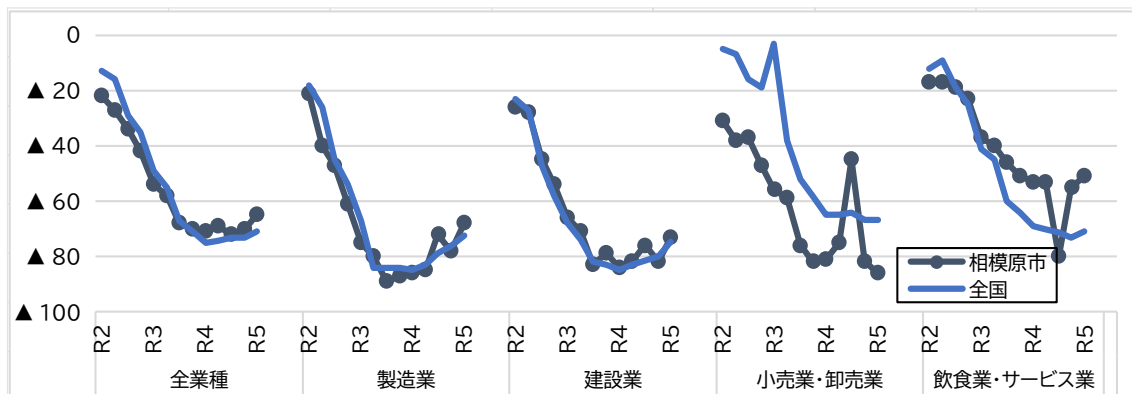


仕入単価DIの推移

仕入単価DI(前年同期比)の推移

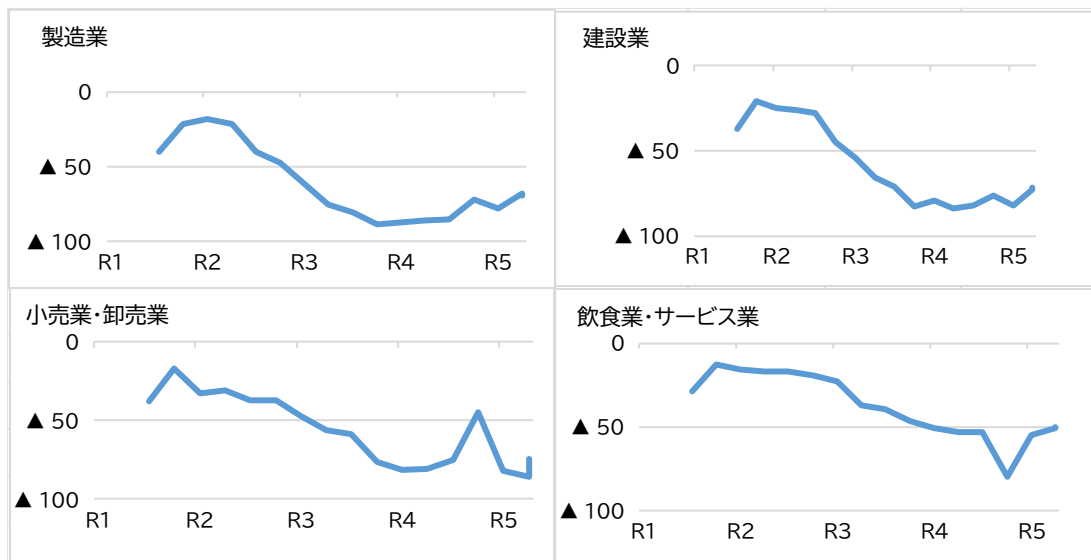
全産業の仕入単価DIは▲63(前期差2ポイント増)で、ほぼ変動がなかったといえる。産業別にみると、小売業・卸売業は▲74と若干改善したのを除いて、飲食業・サービス業が▲50、製造業が▲69、建設業は▲72と、いずれも低位の状況が続く。全国と比較すると、小売業・卸売業は全国より悪く、飲食業・サービス業は状況が良い。

(令和3年1-3月期～令和6年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「原材料・商品仕入単価DI」を使用。
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
 ※仕入単価DIについて、当所では「DI=下落—上昇、中小企業庁は「上昇—低下」で算出。
 比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考) 仕入単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

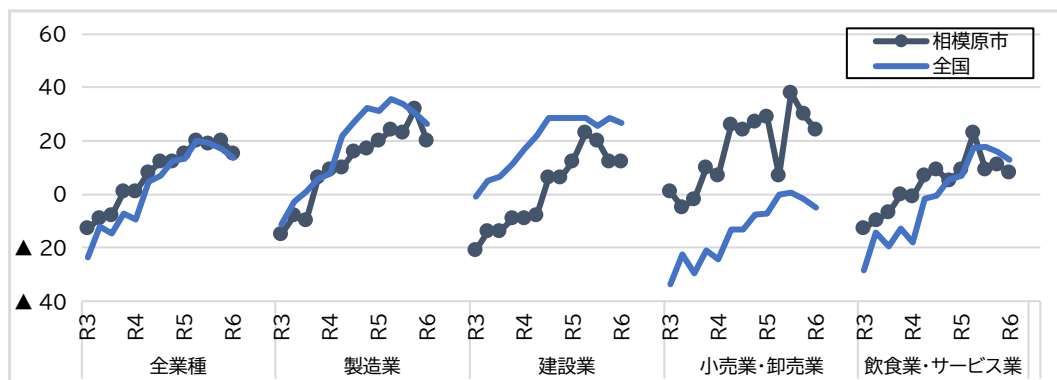


販売単価DIの推移

販売単価DI(前年同期比)の推移

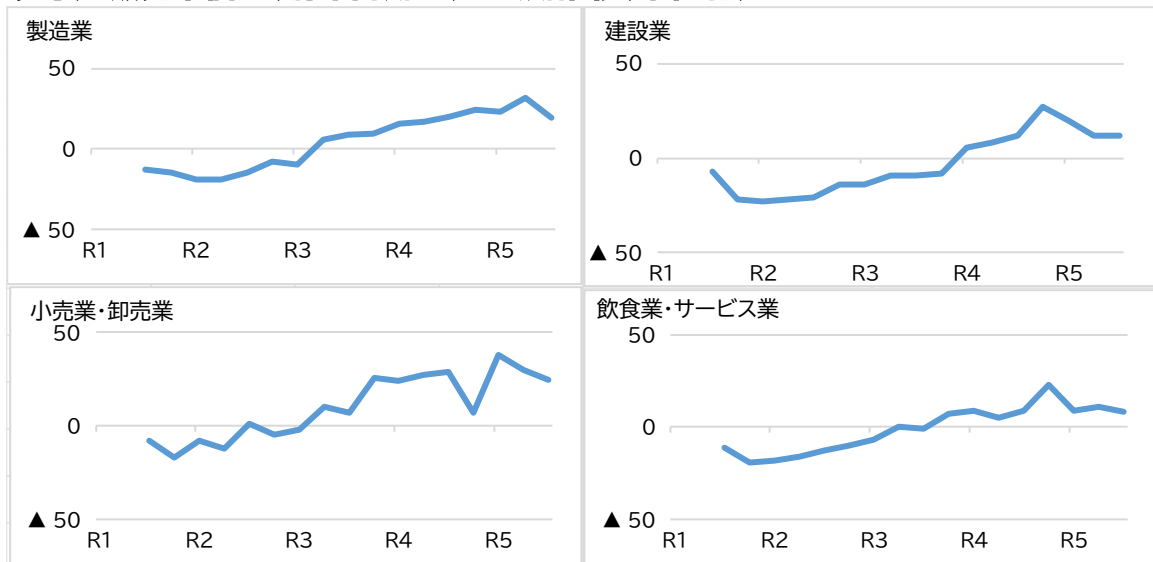
全産業の販売単価DIは、15(前期差5ポイント減)と、若干の減少であった。
 産業別にみると、建設業は12、飲食業・サービス業は8で、価格上昇は一旦落ち着いた様子である。製造業は20、小売業・卸売業が24と、やや下落している。
 全国値と比較すると、建設業は全国よりもやや低い水準が続いている。小売業・卸売業は、全国よりもかなり高い状態が続く。

(令和3年1-3月期～令和6年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「販売単価・客単価DI」を使用。
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
 ※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所LOBO/建設業令和6年3月」分類の値を使用

参考) 販売単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



従業員DIの推移

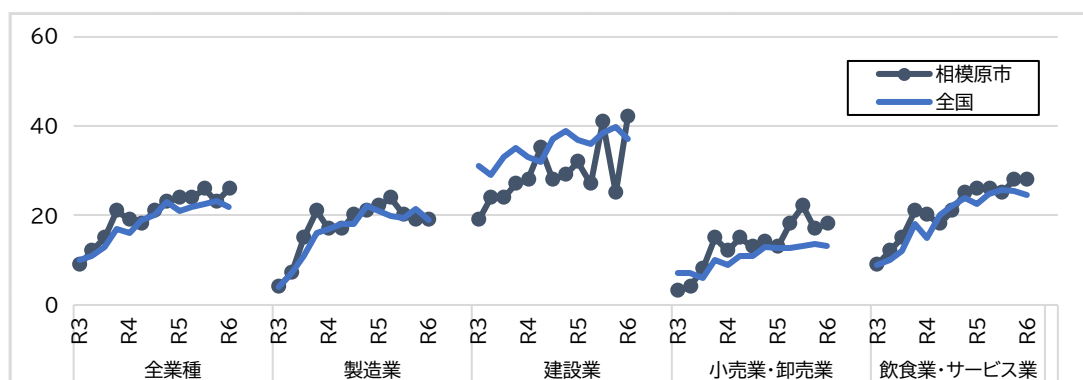
従業員DI(前年同期比)の推移

全産業の従業員DIは、26(前期差3ポイント増)で、前期から微増であった。

産業別では、建設業は42で人手不足感が大幅に増した。飲食業・サービス業は28、製造業が19、小売業・卸売業が18でいずれも前期並みであった。建設業は売上DIが増加し受注が好調なため、人手が一層不足しているものと思われる。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、製造業を除いて当市の方が、人手不足感が高い。

(令和3年1-3月期～令和6年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「従業員数過不足DI」を使用。

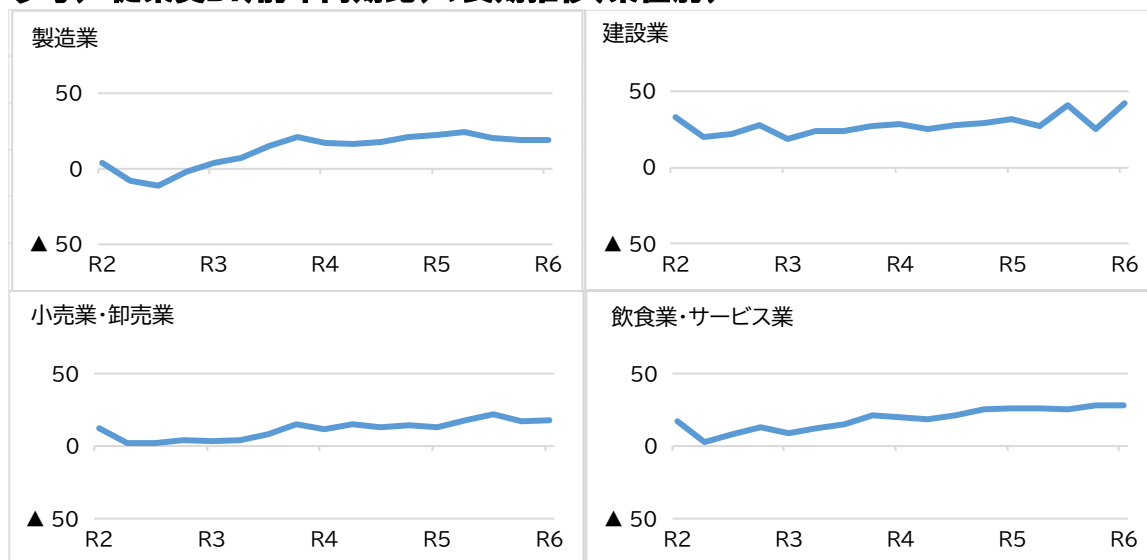
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査

※従業員DIについて、当所では「DI=不足-過剰、中小企業庁は「過剰-不足」で算出。

比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考) 従業員DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



資金繰りDIの推移

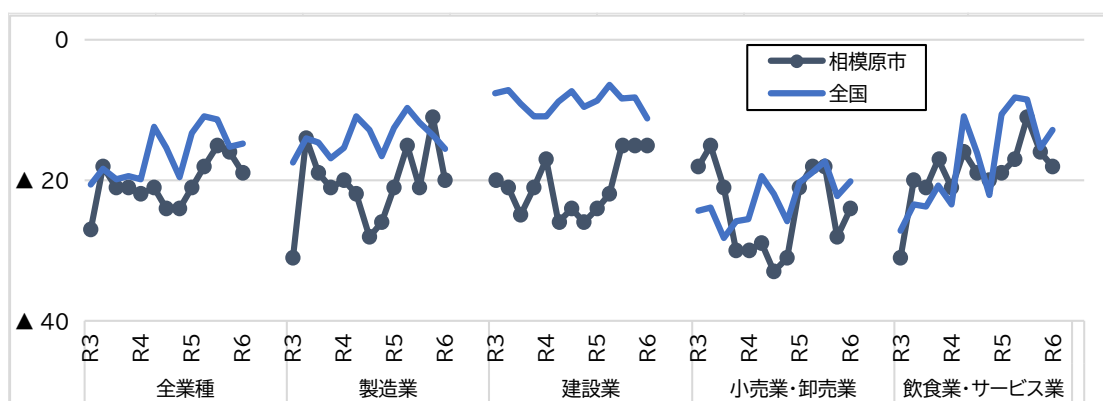
資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、▲19(前期差3ポイント減)で、前期とほぼ同じであった。

産業別にみると、建設業は▲15で前期並みであった。小売業・卸売業が▲24でやや改善。飲食業・サービス業は▲16、製造業は▲20で、やや悪化した。製造業や小売業・卸売業は採算DIが低位であり、資金繰りの状況も改善が遅れているようである。

産業別に当市の今期の数値を全国値と比較すると、すべての業種で当市のほうが全国よりやや悪い状況となっている。

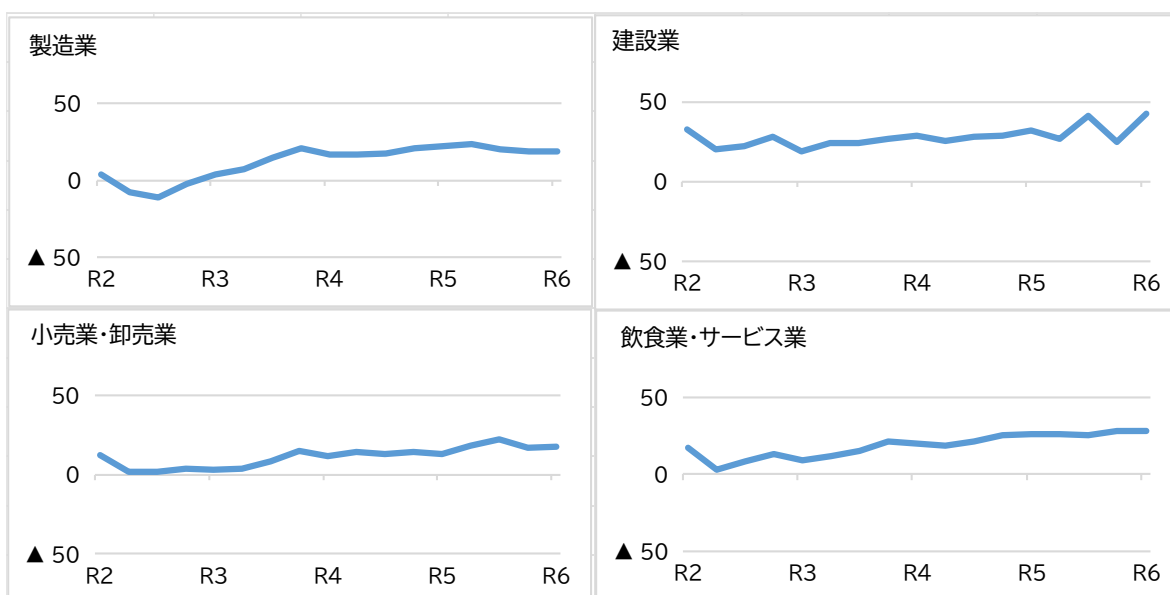
(令和3年1-3月期～令和6年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



集計表(景気観測調査)

			今期(R6.1~R6.3)				次期見通し(R6.4~R6.6)			
			売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値
製造業	売上	サンプル数	33	62	58	153	40	65	48	153
		構成比	22	41	38	▲16	26	42	31	▲5
	採算	サンプル数	22	71	60	153	25	80	48	153
		構成比	14	46	39	▲25	16	52	31	▲15
	仕入単価	サンプル数	2	43	108	153	2	85	66	153
		構成比	1	28	71	▲69	1	56	43	▲42
	販売単価	サンプル数	40	103	10	153	17	124	12	153
		構成比	26	67	7	▲20	11	81	8	3
	従業員	サンプル数	36	110	7	153	29	119	5	153
		構成比	24	72	5	▲19	19	78	3	16
	資金繰り	サンプル数	8	106	39	153	8	119	26	153
		構成比	5	69	25	▲20	5	78	17	▲12
	業況	サンプル数	19	71	63	153	22	89	42	153
		構成比	12	46	41	▲29	14	58	27	▲13
建設業	売上	サンプル数	30	38	17	85	19	40	26	85
		構成比	35	45	20	▲15	22	47	31	▲8
	採算	サンプル数	14	45	26	85	10	49	26	85
		構成比	16	53	31	▲14	12	58	31	▲19
	仕入単価	サンプル数	1	22	62	85	1	32	52	85
		構成比	1	26	73	▲72	1	38	61	▲60
	販売単価	サンプル数	23	49	13	85	22	52	11	85
		構成比	27	58	15	▲12	26	61	13	13
	従業員	サンプル数	37	47	1	85	32	50	3	85
		構成比	44	55	1	▲42	38	59	4	34
	資金繰り	サンプル数	5	62	18	85	4	65	16	85
		構成比	6	73	21	▲15	5	76	19	▲14
	業況	サンプル数	11	52	22	85	9	52	24	85
		構成比	13	61	26	▲13	11	61	28	▲18
小売業・卸売業	売上	サンプル数	19	23	48	90	22	33	35	90
		構成比	21	26	53	▲32	24	37	39	▲14
	採算	サンプル数	7	35	48	90	11	40	39	90
		構成比	8	39	53	▲46	12	44	43	▲31
	仕入単価	サンプル数	2	19	69	90	2	29	59	90
		構成比	2	21	77	▲74	2	32	66	▲63
	販売単価	サンプル数	32	48	10	90	33	48	9	90
		構成比	36	53	11	▲24	37	53	10	27
	従業員	サンプル数	18	70	2	90	17	70	3	90
		構成比	20	78	2	▲18	19	78	3	16
	資金繰り	サンプル数	2	64	24	90	5	56	29	90
		構成比	2	71	27	▲24	6	62	32	▲27
	業況	サンプル数	8	41	41	90	13	41	36	90
		構成比	9	46	46	▲37	14	46	40	▲26
飲食業・サービス業	売上	サンプル数	56	107	65	228	69	109	50	228
		構成比	25	47	29	▲4	30	48	22	8
	採算	サンプル数	28	121	79	228	43	132	53	228
		構成比	12	53	35	▲22	19	58	23	▲4
	仕入単価	サンプル数	1	112	115	228	3	133	92	228
		構成比	0	49	50	▲50	1	58	40	▲39
	販売単価	サンプル数	37	173	18	228	44	167	17	228
		構成比	16	76	8	▲8	19	73	7	12
	従業員	サンプル数	68	156	4	228	58	170	0	228
		構成比	30	68	2	▲28	25	75	0	25
	資金繰り	サンプル数	12	167	49	228	18	176	34	228
		構成比	5	73	21	▲16	8	77	15	▲7
	業況	サンプル数	27	133	68	228	37	144	47	228
		構成比	12	58	30	▲18	16	63	21	▲4
全業種総合	売上	サンプル数	138	230	188	556	150	247	159	556
		構成比	25	41	34	▲9	27	44	29	▲2
	採算	サンプル数	71	272	213	556	89	301	166	556
		構成比	13	49	38	▲26	16	54	30	▲14
	仕入単価	サンプル数	6	196	354	556	8	279	269	556
		構成比	1	35	64	▲63	1	50	48	▲47
	販売単価	サンプル数	132	373	51	556	116	391	49	556
		構成比	24	67	9	▲15	21	70	9	12
	従業員	サンプル数	159	383	14	556	136	409	11	556
		構成比	29	69	3	▲26	24	74	2	22
	資金繰り	サンプル数	27	399	130	556	35	416	105	556
		構成比	5	72	23	▲19	6	75	19	▲13
	業況	サンプル数	65	297	194	556	81	326	149	556
		構成比	12	53	35	▲23	15	59	27	▲12

集計表(トピックス)

製造業
法律改定による受注品目の大幅減少などペーパーレス化の影響を大きく受けている。【商業印刷物、書籍出版物】
物価高、賃金上昇に発注量や発注単価が見合っていない。【製造業】
部品供給が改善される事がKEYになると思っています。【設計、開発、生産(委託)販売を無線機器、オーディオ機器について行っています。特に無線機器については米国MOTOROLA SOLUTIONS社の総代理店として販売】
部品や材料の高騰が激しく、すべて客先からの支給品になることが増えている。【各種自動制御装置の設計、製作、施工等】
部材価格の高騰、納期の長期化、加工費等の高騰、半導体不足、他部材不足。【工業用自動機にお開発・製造・販売】
必要とする人材が集まらない。【インサーキットテスト、インサーキットテストフィクスチャ、ファンクションテスト】
販売がピークを超えて下落。【キャンピングカーに製造販売】
半導体産業に携わっている関係で、販売単価が上昇し好転しています。【精密機械・設計・製作】
半導体の入手が大分良くなって来ているが、相変わらず海外から入手の依存度が高い。【プリント電子基板回路設計、基板実装、ソフトウェア】
年明けから春(4月)頃までは、受注があり上向き加減に感じるが、春以降は先が読めない。【工業塗装】
電子部品の仕入れ長納期化、仕入れ価格の大幅上昇。【パッシブ除振台・アクティブ除振台・防振装置・各種防振ゴム・制振材・吸音材・除振工事・防振工事・制振工事・除振コンサルタント・振動測定及び解析】
賃金上昇の圧力、大手と小企業の格差拡大。【精密機器搬送用ケース製造】
注文ロット数量の減少と単価交渉の難航に伴って、人件費の上昇(昇給検討による人材確保)及び福利厚生費の増加による収益圧迫。消耗品や光熱費などの諸経費上昇も含む。【上水道継手・自動車部品等の旋盤加工】
中東の紛争がエネルギーコストに及ぼす影響。【電池部品】
中口経済の影響か、業界全体が不振(プリント基板)。【製造業】
値上げができる営業マンがいない。【金属製品加工】
男性の新卒者の採用が困難である。【臨床検査薬の開発、製造、販売】
大口顧客からの受注が一年以上大幅に減少しており、ほかの顧客からの受注増に取り組んでいるが、リカバリーには時間がかかるだろう。従業員を減らすことはできない。理由は忙しくなった時、人員の増は困難だと考えている。【ワイヤーハーネスの製造】
大企業の不正が多く続き、日本メーカーの信頼低下に繋がることが心配。【半導体装置、医療器、測定装置等の精密板金】
対前年比の売上減少は、昨年急激に受注が伸びたためでもあり、直ちに経営に影響するものではないが、全体に需要の勢いが弱まっているような感覚がある。【製造業】
増益の状況では無いが、従業員の待遇を良くする必要がある。【雷対策機器】
相変わらずの最低賃金の上昇 扶養控除の枠があるための働き控えによる人手不足。油などの食品の値上げによる原価高騰。高齢者が利用する商品については販売価格を上げるわけにはいかず採算が取れない。【弁当 惣菜】
相変わらず、各種コストは上昇しているにも関わらず、それらの価格転嫁が実現できていない。【ショットブラストおよび下塗塗装】
全体的な不況感はあるが、現在が底であり、4月以降は好転を見込んでいる。【プリント配線板製造】
製造業全体的に動いていない。全く。【装置開発、製造】
新卒採用の停滞。【電力機器、配電機器、免振・制振・制音デバイス、精密デバイス】
状況が悪い中で生産となり先行き不明。【光通信機器周辺部品】
従業員不足と協力会社の不足等で生産向上が図れず 受注量に答えられず、売り上げ伸び悩み、今後の受注に影響が考えられず。【製造業】
従業員賃上げによる負担増加。【電気機械器具製造】
従業員の給与UPをしなければならないが利益はなかなか増えない。【金蔵表面処理】
終わりの見えない原材料や様々なコスト増で、給与アップも慎重にならざるを得ない。【精密板金製品の製造】
受発注の状況。【印刷】

受注予定が先送りになる。【食品メーカーへの自動化機械の製造、販売】
自動車関連の動きが、明確でない。【切削工具製造及び再研磨】
事業承継による人材確保と育成及び会社経営の即時立て直し。【軟質ウレタンフォーム加工及びウレタンチップフォーム製造加工】
仕入単価の上昇、受注の減少【精密板金加工】
仕入価格上昇、賃上げに対し価格転嫁が出来ない。【角型紙管等製造販売】
仕入価格の上昇と円安により仕入れコストが高騰する一方で売価への転嫁も限界になっている。受注は前年より若干の伸びが見られる(1Q)が、収益率は低下気味に推移する見通し。【空圧制御バルブ製造販売】
仕入れ単価の上昇、受注単価の低下。【金属加工】
仕事量の激減。【段ボール製函紙器一式・包装資材販売】
昨年迄の3年間はコロナ禍での業界不況の中雇用調整等で雇用を守ったが、今期に入り相変わらず業況改善できず雇用削減をしたが不況感が続く。【放送設備の機器の設計・製造】
材料費、経費の高騰。【ヨットのマスト設計・製造他】
今後は前期比10%程度の減少見込み。【ねじ、ボルト製造】
今後がよくわからん。【部品加工】
国内は色々問題があって受注が減少しそうだが色々な観点から仕事を受注していきたいと考えている。【精密部品加工、治具製作・設計】
国内からの注文はほとんどなく、あるのは台湾・中国からだけになっている。【電子部品用ソケット】
顧客業界が全体的に消費に消極的。【産業用モータ制御装置の製造・販売】
雇用状況。【金属製品塗装、金属製品加工】
雇用状況。【金属製品塗装】
個人消費が良くない為、売上が良くない。【ジャズポップコーン、ポップコーン原料豆】
個人は買い控えが強い。取引先も価格転嫁が上手くできないでいる様子。材料費(特に石油製品)上昇が客単価を下げる。国内生産まで株価上昇の恩恵は無い。日本産品、日本産製造製品を日本国内で消費する事をもっと率先して「えこひいき」してほしい。【畳】
原材料費の上昇が続いている。【医薬部外品、化粧品、医療用具の製造】
原因不明の不景気。【シャフト・ベアリングケース・ブラケット等の機械加工】
景況。【製造業】
業界問わず、注文がないし、話もない。【フランジ、シャフト、ブラケット】
過度な円安が仕入コストをアップさせている。【通信機事業(無線機、IP無線)、ハイオエンド オーディオ事業、カラオケ機器、上記の設計、生産(外注委託)、自社販売、米国モトローラ ソリューションズ社の総代理店、仕入と販売】
円安相場を早期に脱却して欲しい。【電子応用装置の設計・製造、防犯カメラ等セキュリティ機器販売】
円安解消時期。原材料仕入れ価格の安定化時期。金利動向。【空気圧電磁弁製造販売】
円安から日本の経済が脱却されたい。【電子応用装置の設計・製造防犯カメラ等セキュリティ機器】
引合いはあるが発注までの時間が長くなったと感じている。【省力化機器の設計製造】
引き合いに対して成約する確率が下がった。経費が増加し続けている。【電子回路設計／製造／販売】
印刷物の内製化、AI技術の進化、AI技術を手軽に活用する企業の増加。【編集・デザイン・印刷・サイン施工等】
やはり、人材不足。【工業製品塗装】
パートが採用できれば売上増加が見込めるが、扶養内勤務が多い中、最低賃金が上がり、出勤日数が減るため、総労働時間の確保が出来ないので、根本的な対策(法改正)を政府は実施しないと各企業労働力確保がさらに困難となる。【スティックシュガー、健康食品等一般食品の製造】
コロナ禍があまりにひどかったため、好況感は、感じない。【機械加工全般】
この時期(2月～3月)になると忙しいのですが人手不足になり思った成果がでない。技術職なので人材育成には時間がかかり小企業としては難しい問題である。【制御盤製作、機械設備等の電気工事】
2023年新製品の上市で売上増。【医療機器及び関連商品の研究開発、製造販売】
2023年秋より不況感が出ており、2024年年初より不景気感が増している。【発泡スチロール加工業】
「得意市場の縮小」「仕入価格の継続的上昇」「採用難」。【印刷後加工機の開発設計・製造】

建設業
来期の上期の案件が少なく感じている。【クリーンルーム、居宅介護支援】
物価上昇し材料等の購入が、高くなっているがあがった分だけの上乗せ請求ができない。【冷暖房設備工事】
部材調達の長期化(現在だと電線)。【給排水衛生設備工事】
売上高は少し持ち直してきた。原価上昇の転嫁も出来てきた。全体的には悪化。【手術室・クリーンルーム、居宅介護支援】
入札により仕事を確保している業界は先々への安心材料は皆無です。落札できれば天国、ダメなら貧乏経営まっしぐら。このことは改善の余地なく昔から続く厳しい現実です。【造園(緑地管理等)】
電線不足と電材の価格上昇。【電気設備工事】
電線等の入手性が非常に悪いです。【電気工事】
電線(ケーブル)が仕入困難、入荷のめどがたたない。【建設業】
先行きが不透明。【リフォーム工事】
正社員を募集しても採用に至らない。一人あたりの採用コストが非常に高額である。また採用活動のために時間や労力を大きく割けないので、尚のこと採用が難しい。【ポンプ、送風機のメンテナンス】
人手不足と労働改革のバランスが悪い。【工場・事務所、木造住宅・アパート、リフォーム等】
人手不足。【機械設備設、解体】
人材不足。【給排水衛生設備】
人員不足に外注発注増加。【電気工事業】
色々な値上り。【解体業、産業廃棄物処理業】
週休2日制や、残業規制で、人件費や本社経費がかさむ。公共工事では、この点について、費用を見てくれない。【土木、建築、とび、大工、鋼構造、水道、解体、造園】
社員新規採用時の設備投資にPCやソフト導入に意外と費用が発生すること。【建築設計】
資材の高騰とその高騰を受注価格に転嫁すると受注が厳しい状況、従業員の不足と週休二日体制への難しさ。【建築物の設計・施工・管理請負業務】
仕入単価の上昇、従業員不足。【管工事・電気工事】
仕入単価の上昇。【建設業】
仕事量に波があり、特に今期は好不況がハッキリしている。【建設業】
工事の予定があってもケーブルが不足していて、工程が予定通り組めない。かといって、業界自体がケーブル不足のため他社に営業をかけても暇な時はかぶり忙しくなるとどこも一斉に動き出す。【電気工事業、施工管理派遣業】
公共工事の採算が悪い。長期の案件が増え、経費がかさむ。人員不足で、ヘッドハンティングも増え給与も上げなくてはならないのに不足している。【管工事業】
建築業界人手不足、人件費高騰中、材料費高騰中。【管工事業、電気工事業】
求人来ない。【電気通信工事業】
株価は上昇しているが、顧客の企業の業績が悪く、設備投資をしない為、受注が大幅に減っている。【電気工事業】
円安による資材価格高騰。【冷凍、冷蔵設備販売、施工】
意外に忙しい。【総合建設業 不動産業】
コロナ禍が5類へ移行後、数年ぶりに開催などの声を聞き、人・物が動き出していることがうかがえますが、今後の見通しが不透明なのか、建設関係の受注の動向は鈍いように感じられます。【土木・建築工事の施工】
インバウンドの回復及びコロナ禍での投資抑制の反動もあり、投資意欲は旺盛。労務逼迫、資機材コスト動向を注視しつつ更なる利益改善に取り組む必要がある。また、令和6年能登半島地震復興事業の影響を注視する必要がある。2024年4月に迫った「時間外労働上限制限」への全社一体での取り組みは急務。デジタル活用、人材育成、協力会社との連携など、中長期を見据えた現場力の強化が必要。脱炭素社会への適応・貢献と利益創出の両立が必要。【土木、建築工事請負業・不動産事業】

小売業・卸売業
慢性的人員不足と時給の高騰により経営が困難になっています。【コンビニエンスストア】
弊社は主に中国と貿易を行なっていますので、中国国内の状況と為替の変動は今期の運営状況を左右されます。【電子部品、精密金属製品の加工及び輸出入です】
物価上昇に伴い消費が冷え込んでいる感。【地方卸売市場(青果)の運営】
物価上昇、最低賃金向上、働き方改革、NISA等社会変化で、耐久消費財等の後回しに出来る買物は買い控えられて、かなりの零細個人店は苦戦を強いられて廃業も考えている方もお客様には居ります。益々シャッター街になっていくでしょう。商店街も減少するでしょう。75歳以上の方々にJCBギフト券(1000円券×5枚)配布しても使える店どれだけあるのか?私が今確認している商店会コンビニ等で取扱店対象外ほとんど無し。【メガネ、補聴器、コンタクトレンズ】
物価の上昇、円安の影響で購買意欲の減少。【メガネ、コンタクトレンズ、補聴器】
必要経費が高い。【電気工事、設備工事、家電、住宅設備機器】
販路縮小。【コレクションサプライの企画販売】
販売高品の大幅な値上げ。【スポーツ用品】
売上を上げることが本当に難しい。店舗の来客数は年々減っている。早急に手を打たなければならない課題が山積みだが余裕資金がなく投資出来ない。本当に困っている。【IT機器、事務用品の販売】
特になし、景気的にはあまり改善されていない。【墓石・仏具等販売・霊園紹介など】
地震等があり消費者意識が食べ物より、防災グッズ等や、いざという時のたくわえに回ってしまっているのではないかと思います。【食肉】
大手アミューズメント機器メーカーの開発が動き始めた。【業務用アミューズメント機器の開発・設計・電子製品・部品など輸入販売、電子黒板の販売】
世間で言われているような好景気感がほとんど感じられない状況と思う。【非鉄金属部品等の販売他】
人材不足。【電設資材卸売】
新規顧客をいかにリピーター化していけるか。【貿易、中国輸入、OEM開発】
小売り現場は値上げ基調に無い、運送コストの上げ基調。【飲料、酒、たばこ、宝くじ】
取引先様の過剰在庫の償却傾向。【電子部品の販売】
取引先ユーザーの国内生産ニーズ、試作、開発型、多品種少ロット対応型、高付加価値製品、短納期製品などを見極め、これに対応できるものづくりパートナー整備が必要と考えております。【産業用(車両、機械、工作機械、建設機械)及び自動車等の工業部品類の販売商社となります。】
若年層の就労人数の低下。【住宅設備機器卸売】
仕入単価が上昇しているが、価格転嫁できず結果利益率が低下している。また、コロナ関連の消費喚起の補助金がなくなったのに加え、また、昨今のインフレに伴い、来客数および売上高で前年度を割る月が増えている。【市内物産品】
仕事の受注のチャンスはあるが部品の納期等で契約にならない事が多々ある。【中古車販売】
国よりも団体(受)を重んじ団体よりも身を重んずる人の群れ。我々では難問でしょう。ワンフォーオール! 必要ですが、その逆も利他概念としてベースになろう。AIのフェイク技術が進む時代は、価値多層社会が基本とはなるのであれば、地層的实际的に深堀する活動が考えられます。突き上げが進められると地域経済は伸び地域コミュニティが改善されるでしょう。【米穀、酒類、飲食品、雑貨、菓子】
公共機関向けの商品が多いので、1月～3月は年度末の予算の関係で売り上げが高いはずが、さほど伸びが感じられない。【エアコンプレッサー及び周辺機器の卸売り(一部製造)】
個人消費の低迷の影響か、売上不振が続いている。【健康食品】
個人消費の低迷、新入学に必要なものの購入も、おさがりなどで出費をおさえて、商品を買うにしても、1枚で様子見など、色々考えながら買ってる方が増えました。【スポーツ用品販売】
個人消費がコロナ前より増加している。【健康食品】
景気回復の兆し有り。【射出成形機及び周辺機器の販売及び自動機金型の製造販売】
業務用機器、コロナの補助金が終了して、設備投資がすくなくなり、売上減少が懸念される。【24時間風呂。風呂ろ過装置、販売・施工・メンテナンス】
気温上昇によりLPガス販売量が低下し、売上数量が大幅に減少している。【LPガス販売】
海外の仕入れが増加し、特に、大型受注が増えたため資金繰りが間に合わない。【受託製品:製缶品・機械加工品・金属非金属素材(鋳物・鍛造品)】
円安による仕入単価の更なる上昇。【介護用食品の開発&販売】
案件増加傾向にある。【省庁向け資材・器材の企画開発・販売、インターネットショッピングモール内店舗運営】

チェーン店による、電子マネー化で集客率が減少。【調剤薬局】
コロナリベンジ消費もひと段落、景気の先行き不安から個人消費の落ち込みを感じる。。【衣類 化粧品 健康食品】
アウトドア業界における販売不振。客数、客単価、粗利額、全てでマイナスが続いている。【釣り具販売】
TEL、FAX、客が来ない。【はんこ、印刷】
2、3月期は工事販売件数が減少しているが4月以降は販売上昇が見込める。【家電品販売、設備電気工事】
1～3月期売上を減少としていますが、代表者しかいない会社であるにもかかわらず、本人が怪我をしてしまい、業務遂行が出来ない状態の為であり、景気には関係ありません。【業務用厨房機器及び消耗品の販売】
「学校給食の入札制度緩和」。【生鮮青果物】

飲食業・サービス業
労務費をはじめとするコスト上昇とその転嫁のバランスがとれておらず、収益率が悪くなっている。【ビルメンテナンス】
例年並み。【写真業】
来店サイクルが長くなった。【美容業】
毎月のことですが従業員の不足が売上減少につながっている。ヘルパーの増員が今後を左右する。【訪問介護事業】
変わらず労働力確保の難しさが継続。賃金を引き上げながら確保を目指す、競争激化。【再生資源卸売・廃棄物処理】
弊社の汎用型AI特許(世界初:コンピュータによる自己判断を可能にした情報処理技術)について、イギリス/UAE/インド・他から投資の依頼があり、日本国内でも事業提携の提案・他が有るが、AIの定義がコンピュータ自らが考える/判断するといった機能を持っていることではなく、〇〇才並みの能力があればAIと呼ぶことが一般的になってしまった。 これにより、人が事前に判断した内容や処理を実行しているだけの機能で、コンピュータは判断すら行っていないものであってもAIと呼ばれる状況(自動運転やChatGPTなど)となり、総合的な判断が可能な弊社AI特許の価値(活用効果を含む)が正しく理解されない環境があると感じている。【PLM開発コンサルタント、汎用型AI(弊社特許)の活用展開、要求定義支援】
物価上昇に需要層収入が追いついていかない事による買い控えが顕在化し、商品不動産の在庫率上昇につながっている。【不動産買取再販・仲介・管理】
物価上昇により仕入れ単価が上昇していること。【居酒屋、ダーツバー、デリバリー専門店】
物価上昇が響いてきていると感じます。【福祉、生活介護】
物価高騰。【インキュベーションセンターの運営】
物価高の影響が出ている。【鍼灸院】
福利厚生制度の整備・充実。【設計受託・請負業務、労働者派遣事業、求職者支援訓練事業】
不景気と感じますが今年もコロナ禍の時とは違い旅行に出る世帯が多いと感じます。人件費が高い。【韓国料理、焼肉】
不況感が漂っている。【飲食業】
販売不振(土地)。【不動産売買、仲介、測量、開発】
販売先(客数)が若干減少と人手不足。【パーマ・カラー・カット】
売上はあまり変わらなくても、経費、人件費が増加している為、利益は減少しています。【梱包】
売上が非常に不安定だった。【産業廃棄物処理業(焼却)、産業廃棄物収集運搬業】
年末(2023年12月)の受注が減った。外注件数が増えた→従業員不足と利益率の低迷。【一般貨物自動車運送事業、産業廃棄物収集運搬事業】
年初に災害や重大インシデントがあり、不安な年明けを感じる。株価は最高値であるが、このまま適温相場になるとは思えない。世界各地の紛争、国のリーダー選挙、中国経済の落ち込み、国内のあらゆる経済活動の人手不足、政局の不安定等のリスクあり。変化に対応できるよう事業展開する。【プレス機械関係自動化・システム化、並びに品質および環境マネジメントシステムの管理、改善のご支援】
賃上が政府・大企業で云われているが、中小企業では云われても無理。【ビルメンテナンス業】
他の企業は、業績は向上しつつあるように感じます。【その他のサービス業】
世界情勢。【再生資源卸売業】

倉庫、工場の不足、戸建て住宅の在庫過多。【子育て施設運営、住宅分譲地仕入・企画・販売、土地建物売買の仲介、賃貸物件の管理・仲介】
社員を増やしたいが、求人を出しても応募がない。【建築物清掃】
人手不足が深刻な状況です。【清掃用具レンタル、販売、清掃業、害虫駆除、家事代行】
人手不足。【海外引越】
人手がないため事業拡大できない。【自動車整備】
人件費高騰。【清掃作業】
人件費の上昇。【梱包業】
人員不足、介護保険。【介護事業(福祉用具、訪問介護)】
人員の確保が大変。【その他の業種】
人で不足と後継者の育成。【障害福祉サービス業:就労継続支援B型事業】
新築住宅の動きが鈍い。【不動産仲介(売買)】
昇給の原資確保に苦慮している。【ソフトウェア開発・SEサービス】
昇給のための原資確保が厳しい。(ソフトウェア・情報通信業)
諸経費の増加が身に沈めている。【専門・技術サービス業】
従来の指定管理元請が不採用となり、売上に大きな課題を背負うことになりそうである。加えて、指名→一般入札の制度変更に伴う売上悪化が懸念される。【ビル清掃、設備管理業】
従業員不足以外特になし。【物流センター運営】
従業員不足により生産性が不安定。【セキュリティサービス】
従業員不足。【ビジネスホテル】
従業員の不足により、仕事が回らなくなってきてしまう。【新聞、医療雑貨生活用雑貨】
従業員の確保が厳しくなっていくことは間違いない。【WEBページ、システム制作、ネットワークカメラ施工販売】
住宅着工件数の減少、土地取引の減少。【土地調査測量、表題部の登記(土地・建物)】
需要数の減少。【宅地開発分譲・売買仲介、賃貸物件の管理・仲介、不動産コンサル相続等】
受発注の状況、雇用状況。【運送業】
雇用状況(従業員不足)。【一般貨物】
仕入単価上昇。【生ジュース調理販売】
仕入単価が上昇しても、販売価格を上げられない。お客様の来店人数が増加しても売上、利益が増えない。【昼・ランチと弁当 夜・居酒屋】
仕入単価が下落している物もあるが、光熱費を始め食材含め上昇している物が殆どであり、採算が厳しい状況を痛感している。【居酒屋経営。】
昨年はまだコロナ禍なので人も少なかったが、今期はコロナ前より多かった。【飲食店、レストラン】
昨年11月頃まで暖かった為に寒い日に人出が少ない。【理容】
採用の厳しさが年々高まっている。【人材派遣業】
採用に係る経費が諸経費を圧迫している。【機械開発支援業・人材派遣業・技術翻訳・通訳業・クラウドサービス導入支援業】
更に4月頃より受注が無くなる恐れあり。【運輸業・倉庫業・梱包業】
好不況感(インフレ)。【理容業】
厚労省の福祉施設向け従業員1人当たり改善の効果が有った。【障害福祉サービス】
後継者の育成。【電気保安業務受託】
顧客満足度アップのため高単価商品の提案を進めている。低単価からの切り替えもあるが、顧客離れが出てきている印象。【接骨院鍼灸院】
個人消費が上向かない。【頭髮の調髪、顔剃り等】
個人消費の停滞。【社員研修、企業コンサル、ネイルサロンの運営】
個人消費の低迷が、今後も続く予測がされる事。【ホテル】
個人消費の低迷。【通信制高校サポート校】
個人消費の低下。【学習塾】
個人消費の伸びを感じているが、すべての企業が発注先への還元を前向きに検討しているわけではないので、全体的な景気の伸びにつながるのはいま少し時間がかかりそう。【イラスト・デザイン・コミック制作】
原材料や物価の高騰の長期化による景気への影響。【中小企業金融】

1人でも従業員が欲しい。技術と知識がある人材が欲しい。【害虫駆除業】
建物や設備の老朽化に伴う修繕費が多くなっている。今後も増える見込み。仕入れ額が上がっているため、収益が上がらない。個々の費用が上がっているため、景気感が良くならない。収益より支出額の見込みが大きい。楽観的な見方はできない。【不動産、グループ会社からの業務委託ならびに人材派遣業等】
景気対策に(政府国)期待できない。【賃貸管理と不動産全般】
景気が悪い。【蕎麦】
季節的な消費はコロナ前に戻りつつあるが、従業員の確保が困難になってきている。【建築物清掃】
円安の影響に於ける原材料費の高騰、その他、ガソリン代の高騰、個人消費の低迷に於ける影響、消費の優先順位の変化、業界自体の低迷。【墓石清掃・墓石クリーニング・墓石コーティング・墓石メンテナス・埋葬業、その他石材特殊清掃】
コロナ禍を過ぎて、個人消費の回復は見られるものの、消費行動の変化により団体の飲食(宴会需要)が全く回復しないままである。【ラーメン専門店】
コロナより回復しない。【そば、うどん、和食】
コロナウイルスの蔓延収束かと思いきや、再流行の兆しあり。集客手段の一つであるセミナー開催が危ぶまれる。【行政書士:遺言、相続関係書類作成】
インボイス等、電子帳簿保存などの事務面が大変面倒。事務処理の時間がかかり過ぎる。【コンサルティング業、生命保険、損害保険代理店】
インボイス制度の影響。【公認会計士・税理士事務所】
インフレの影響を受けている。【カーコーティング、カーフィルム、钣金塗装】
いまだに値上がりが続いている。【そば】
6月の診療報酬改定で在宅医療の部分が若干のマイナスと予想される。診察料の単価のアップは賃上げの原資にする予定。【訪問診療を中心とした医療機関、一部外来診療】
2月中旬より動きがよくなりはじめてきた。【売買仲介】
2024年問題への対応に荷主の反応が悪い会社がある。【一般貨物運送事業】
2024年問題の対応。【一般貨物自動車運送業、紙製品の配送】
2024年に入り、少し人の動きを感じてはきていますが、まだまだ不安定感は拭えない状況です。【リラクゼーション業】
中年応募者の減少・採用者の高齢化・人件費の高騰・資機材の値上がり。【ビルメンテナンス(建築物の維持管理)】
1月中旬から インフルエンザやコロナの影響か、客足が遠のき景気悪くなりました。 2月中旬以降～ 中東戦争の影響でペルシャ湾のホルムズ海峡 封鎖されたら、かなり厳しくなると予測されます。【海鮮居酒屋】
「経費の増大」。【健康づくりのトレーニングジム】

経営上の問題点

単純集計

経営上の問題点(3つまで回答可、n=578)

	回答割合	
売上不振	30.2%	168
受注単価・販売価格の低下	8.3%	46
収益率の低下	31.1%	173
個人消費の低迷	13.7%	76
販売先の減少	7.4%	41
大型店の進出	0.5%	3
チェーン店等との競争激化	0.0%	0
公共工事の減少	3.4%	19
民間工事の減少	3.4%	19
仕入単価の上昇	41.2%	229
円安の影響	11.9%	66
円高の影響	0.7%	4
代金回収困難	1.1%	6
諸経費の増加	25.4%	141
従業員(含、臨時)が過剰	0.4%	2
従業員(含、臨時)が不足	30.0%	167
設備不足・老朽化	12.8%	71
特になし	7.7%	43

製造業

今回調査を見ると、「収益率の低下」「設備不足・老朽化」が増加し、「販売先の減少」が減少した。経営課題については、ほぼ前期と同様な傾向である。

	R5年1~3月 n=243	R5年4~6月 n=156	R5年7~9月 n=179	R5年10~12月 n=161	今回調査 n=153
売上不振	41.6%	44.8%	33.5%	37.3%	36.6%
受注単価・販売価格の低下	13.2%	6.7%	10.1%	11.2%	10.5%
収益率の低下	38.7%	43.6%	24.0%	26.7%	33.3%
個人消費の低迷	2.9%	31.5%	1.1%	1.2%	3.3%
販売先の減少	10.3%	13.9%	8.4%	9.3%	5.2%
大型店の進出	0.0%	5.5%	0.0%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	1.6%	2.4%	1.1%	1.2%	2.0%
民間工事の減少	2.9%	2.4%	1.7%	1.9%	0.7%
仕入単価の上昇	65.0%	65.5%	42.5%	47.2%	49.0%
円安の影響	10.7%	10.9%	15.1%	16.8%	16.3%
円高の影響	1.2%	1.8%	1.7%	1.9%	0.7%
代金回収困難	0.4%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
諸経費の増加	29.2%	43.6%	26.3%	29.2%	26.8%
従業員(含、臨時)が過剰	1.2%	0.6%	0.0%	0.0%	1.3%
従業員(含、臨時)が不足	23.0%	38.2%	24.6%	27.3%	28.1%
設備不足・老朽化	12.3%	20.0%	13.4%	14.9%	18.3%
特になし	2.9%	10.3%	6.1%	6.8%	3.9%

経営上の問題点(業種別)

建設業

前期と比較して、「収益性の低下」「仕入単価の上昇」「諸経費の増加」「従業員が不足」が増加した。「売上不振」が減少した。DI値でも売上は好調であるが、コスト面ではあまり改善が進んでいない。

	R5年1~3月 n=141	R5年4~6月 n=111	R5年7~9月 n=112	R5年10~12月 n=95	今回調査 n=85
売上不振	21.3%	40.5%	20.5%	24.2%	14.1%
受注単価・販売価格の低下	14.2%	12.6%	12.5%	14.7%	14.1%
収益率の低下	34.8%	38.7%	24.1%	28.4%	35.3%
個人消費の低迷	9.2%	4.5%	6.3%	7.4%	5.9%
販売先の減少	4.3%	11.7%	3.6%	4.2%	5.9%
大型店の進出	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.9%	1.1%	0.0%
公共工事の減少	14.9%	1.8%	12.5%	14.7%	12.9%
民間工事の減少	17.7%	9.0%	9.8%	11.6%	12.9%
仕入単価の上昇	63.8%	52.3%	37.5%	44.2%	55.3%
円安の影響	5.7%	2.7%	6.3%	7.4%	2.4%
円高の影響	2.8%	0.0%	0.9%	1.1%	0.0%
代金回収困難	2.8%	0.9%	1.8%	2.1%	0.0%
諸経費の増加	23.4%	31.5%	19.6%	23.2%	27.1%
従業員（含、臨時）が過剰	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%
従業員（含、臨時）が不足	31.2%	34.2%	30.4%	35.8%	42.4%
設備不足・老朽化	2.8%	16.2%	4.5%	5.3%	4.7%
特になし	5.0%	18.9%	7.1%	8.4%	5.9%

小売業・卸売業

「収益率の低下」「受注単価・販売単価の低下」「円安の影響」「設備不足・老朽化」が増加した。「仕入単価の上昇」「諸経費の増加」が減少した。販売単価の上昇も落ち着きつつあるようである。

	R5年1~3月 n=117	R5年4~6月 n=105	R5年7~9月 n=97	R5年10~12月 n=86	今回調査 n=90
売上不振	41.0%	48.6%	36.1%	40.7%	41.1%
受注単価・販売価格の低下	6.0%	6.7%	4.1%	4.7%	8.9%
収益率の低下	26.5%	41.9%	26.8%	30.2%	35.6%
個人消費の低迷	23.9%	2.9%	26.8%	30.2%	30.0%
販売先の減少	16.2%	11.4%	16.5%	18.6%	17.8%
大型店の進出	2.6%	0.0%	2.1%	2.3%	1.1%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	1.0%	1.2%	0.0%
公共工事の減少	1.7%	1.9%	1.0%	1.2%	1.1%
民間工事の減少	2.6%	2.9%	0.0%	0.0%	3.3%
仕入単価の上昇	57.3%	67.6%	47.4%	53.5%	41.1%
円安の影響	16.2%	6.7%	14.4%	16.3%	25.6%
円高の影響	6.0%	1.0%	1.0%	1.2%	1.1%
代金回収困難	3.4%	1.0%	1.0%	1.2%	1.1%
諸経費の増加	27.4%	38.1%	19.6%	22.1%	18.9%
従業員（含、臨時）が過剰	0.9%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
従業員（含、臨時）が不足	14.5%	32.4%	14.4%	16.3%	15.6%
設備不足・老朽化	6.8%	21.0%	8.2%	9.3%	13.3%
特になし	4.3%	2.9%	2.1%	2.3%	1.1%

経営上の問題点(業種別)

飲食業・サービス業

「個人消費の低迷」「設備不足・老朽化」「従業員が不足」が増加。「販売先の減少」「仕入単価の上昇」「売上不振」「諸経費の増加」「従業員不足」が減少した。売上や収益性はやや改善しつつあり、人手不足がさらに進んでいるようである。

	R5年1~3月 n=386	R5年4~6月 n=265	R5年7~9月 n=279	R5年10~12月 n=236	今回調査 n=228
売上不振	33.9%	18.5%	26.2%	30.9%	27.6%
受注単価・販売価格の低下	7.3%	9.8%	5.4%	6.4%	4.4%
収益率の低下	29.5%	21.5%	23.7%	28.0%	26.3%
個人消費の低迷	15.5%	6.8%	12.2%	14.4%	17.1%
販売先の減少	8.8%	4.9%	7.9%	9.3%	5.3%
大型店の進出	0.8%	0.5%	0.7%	0.8%	0.9%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%
公共工事の減少	2.3%	3.9%	1.1%	1.3%	1.8%
民間工事の減少	2.3%	6.3%	1.8%	2.1%	1.8%
仕入単価の上昇	40.9%	35.6%	26.2%	30.9%	30.7%
円安の影響	8.3%	5.9%	6.1%	7.2%	7.0%
円高の影響	0.8%	1.0%	0.7%	0.8%	0.9%
代金回収困難	2.3%	0.5%	2.5%	3.0%	2.2%
諸経費の増加	30.3%	15.6%	25.4%	30.1%	26.3%
従業員（含、臨時）が過剰	1.0%	0.0%	1.1%	1.3%	0.0%
従業員（含、臨時）が不足	30.1%	16.6%	25.4%	30.1%	32.5%
設備不足・老朽化	11.1%	3.9%	10.0%	11.9%	11.8%
特になし	8.8%	2.9%	9.3%	11.0%	13.6%